

自	分	色	
は	っ	け	ん

vol.3



一般社団法人
レガートおおた 代表
あおい さよこ
葵 佐代子さん

profile

1973年大田区役所入庁。戸籍住民課、福祉事務所に生活保護ケースワーカーとして従事し、後に国際交流担当部署にて都市間交流を担当する。55歳で早期退職し、「レガートおおた」の立ち上げに参加。これまでの経験を活かし、多くの外国人への支援相談に取り組む。2016年「レガートおおた」代表に就任。

区内で活躍する男女共同参画人

誰もが暮らしやすい地域の実現を

外国人支援を行うように
なったきっかけは？

高校生のころ、日本と中国を行き来している知人女性から中国語を習っていたこともあり、いつか中国に行ってみたいと思っていました。大田区役所の職員として働いていた1976年の夏、訪中団に参加することができました。その訪中を経験し、「中国のよいところを日本に取り入れ、日本のよいところを中国に伝えていければ」と考えるようになったのです。——これが地域に住む外国人と関わるようになったきっかけです。区役所では、戸籍住民課、福祉事務所を経て、国際交流担当部署で北京市朝陽区との青少年交流や大田区内での国際交流事業に関わるうちに、中国以外の国の文化や制度などにも関心を持つようになりました。55歳になり、もっと地域で人と直接関わりながら仕事がしたいと思い早期退職しました。

これまでに苦勞されたこと

大変なのは、地域に住む外国人に

多様な人が暮らしやすい
地域づくりを

必要な情報をしっかりと伝え、届けることです。たとえば、多言語相談窓口があることを知らない方もたくさんいます。区が実施したアンケート調査では外国人の多言語相談窓口認知度は約20%でした。ホームペーjayチャリシなどでお知らせしていますがまだまだ足りません。何でも気軽に相談していただくことによつて、問題の深刻化を防ぐこともあると思います、少しでも多くの方に知っていただきたいと思っています。外国人への情報伝達はいつも課題です。

情報を伝えるということとは単に、外国語に翻訳すれば良いということではありません。

たとえば、日本人であれば「入学式」運動会などで何が行われるのかイメージできますが、外国人にとっては何をやる行事なのか分からないのです。また、病気になつても受診方法が分からないから医療機関を利用できない。だから「国民健康保険」に加入する意味が理解できないという話も聞きます。

また、最近、「役所の書類はやさしい日本語で」という動きが出てきていますが、まだまだ日本人が読んでもよく分からないものがあります。外

国人ならなおさらです。

申請書の書き方を多言語相談窓口に通きに来る方もいます。レガートおおたではそのような方の支援をしながら、やさしい日本語の普及も図ってまいります。

相談を受けていて、外国人の人権がないがしろにされているのではないかと感じる場合があります。外国人だという理由で日本人の皆さんからアパートを貸してもらえないという話も聞きます。これを解決するにはお互いに誤解や偏見をなくし、助け合う姿勢が必要だと思えます。

今後、日本で働く外国人が増えることは間違いありません。当然、大田区に住む外国人も増えるわけですから、多様な人が暮らしやすい状況をこの地域も作り出していく。そのためには外国人支援に関わっている私たちも含め、日本人の意識も変わらなないといけないような気がします。

お困りごとがありましたら、
気軽にご相談ください！



▲多言語相談窓口のスタッフのみなさんと葵さん
(消費者生活センター1階☎03-6424-8822)

